

伊丹市文化財ボランティアの会

# 火曜会通信

第96号

発行日：令和5年2月1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1-1-1

伊丹市まち資源室文化振興課内

## 飛躍・向上の卯年へ向けて

会長 末次 弘幸

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

本年が皆さまにとりまして、希望あふれる、健康で明るい、平和な一年でありますよう、お祈り申し上げます。

2022年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の影響は続いているものの、政府による行動制限が緩和されたこともあり、史跡ガイドの依頼件数／人数が急増しました。2020年度(11件／218人)・2021年度(9件／140人)と低調な推移でしたが、2022年4月から12月までで26件／598人と、2019年度実績(26件／780人)に件数では既に並び、人数も迫りつつある状況です。

2022年4月22日市立伊丹ミュージアムのグラウンドオープンに伴い、岡田家ガイドが再開され、市の内外からの見学者へ向けて、旧岡田家住宅などの概要、歴史的意義などにつき、ご案内をしました。また、6月の臨時総会では、どんぐり座とロマン体験学習支援班の活動を継承する「学習支援班」の新設を提案したところ全会一致で可決され、同班は主として小学生を対象に伊丹の民話紹介・物づくり体験支援活動を7月から開始しております。このように、会の活動がひと頃より活発化しておりますが、これはひとえに皆さま方の多大なるご尽力の賜物と深謝申し上げます。

2023年の干支「癸卯(みずのと)」は、十干の10番目にあたる癸と、十二支の4番目にあたる卯の組み合わせの年。十干の「癸」は、小雨や露・霧など大地を潤す恵みの水を表し、また十干の最後にあたることから生命が終わり、次の新たな生命が成長し始めている状態を意味しています。一方で、十二支の「卯」は、穏やかな兎への連想から安全、温和の意味があり、また跳びはねる特徴から飛躍、向上の象徴と言われます。



癸と卯の組み合わせから2023年は、激動の時代が取り敢えず落ち着き、新たな成長段階へ進み、今までの努力が実を結び、「飛躍」「向上」する年になるものと期待されます。

上述の如く、新たな時代への兆しが見え始めた2022年の段階から、今年はまだ一段の高みを目指して、兎のように跳躍したいものです。コロナ感染問題の終着駅はまだまだ見えない状況ですので、感染対策を十分に講じながらではありますが、研修サロン班の勉強会・屋外研修などで会員の相互研鑽を図り、その成果をガイドや会報・ホームページなどを通じて市民の皆さまに発信することにより、世のため人のためにさ

**【ボランティアガイドの案内】** 伊丹市内に散在する文化財(史跡)のガイドを

ご希望される方は伊丹市文化振興課 文化財担当まで 電話(☎: 072-784-8090)

または文化財ボランティアの会にメール(ibunbora@yahoo.co.jp)でお申込みください。

さやかながら貢献しつつ、組織と会員お一人おひとりの「飛躍」と「向上」を図る一年にしたいと

考えます。引き続き皆さま方のご協力・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 2022(令和4)年度伊丹市文化財保護啓発事業 歴史散策

### 『守ろう村重の城～信長の攻撃に備えよ!』

2022(令和4)年度伊丹市文化振興課主催文化財保護啓発事業の一環として、11月19日に開催された歴史散策「守ろう村重の城～信長の攻撃に備えよ」に当会は協力団体として、会員4名(角谷、佐々木、小川、末次)で案内役を務めた。

有岡城跡カリヨン塔前に15名の参加者が集合。申込開始初日に定員(15名)に達したというから、まさに選ばれし人たちである。

午前9時に有岡城跡をスタートして、惣構のライン上に沿って、3つの砦跡を巡るコースで、約4kmを2時間で歩くという、健脚向けの史跡めぐりだった。

カリヨン塔前で参加者に挨拶をした。「有岡城の惣構をほぼ1周しますので、①惣構の規模を体感すること。加えて、伊丹段丘の地形を巧みに利用して造られた城ですので、②地形特に北や東にある高低差をしっかりと確認すること。今日はこの2つをテーマにして歩きたい。テーマをもって歩けば、楽しさが倍加しますよ」。

まずは有岡城跡について。主郭部が伊丹段丘の東縁部に建っていたと説明。次の荒村寺では、村重との関係と上島鬼貫の句碑について触れる。3番目の見学スポットは破戦道。有岡城のすぐ南側にあり、戦に敗れた村重方の兵が落ち



のびていく道といわれ、地名の長谷堂をもじって「破戦道(ハセンドウ)」と呼ばれた。このあたりから東側を見ると、線路が見え、大きな段差がある。有岡城が伊丹段丘の東縁に造られていて、段丘の崖を自然の要害として利用していることを確認できる。段差があることを実際に見てもらった。

鶴塚砦まで惣構の東側のラインを歩く。鶴塚砦は私有地となっていて、近づけないので、マンションの隣に残る、こんもりとした森を見ながらの案内だった。鶴塚からは西側のラインに沿って歩く。

上臈塚砦に到着。墨染寺の外で、砦の概要をざっと説明し、境内にある女郎塚についても話した。狭い路地沿いに歩き、猪名野神社に辿り着いた。入り口にあるきしの砦説明版の前で、歩いてきた惣構を振り返り、きしの砦について説明。さらに境内に残る土塁を確認した。



最後の見学スポットは北ノ口。有岡城の北の





虎口跡で、今はなかよしⅡ児童遊園地になっている。北ノ口の地形を見ると、遊園地から南西方向に段差があり、惣構外周の中でも最も傾斜が急で、虎口を設けるのに適した場所であることが実感できる。古地図にはこの辺りは治郎ヶ山、崖下へ下る道には治郎ヶ坂と記載されている。遊園地の金網越しに崖下を覗き見てもらおう。最

後の高低差確認作業をもって、見学コースの案内は終了。ときに午前11時ちょうどだった。参加者は市立ミュージアムで、学芸員による「荒木村重展」の展示ガイドを受けることになっていたのので、ミュージアムまで送り届ける。任務を無事遂行し、ほっとした瞬間だった。

(末次 記)

## 史跡ガイド班 屋外研修

### 「池田城と周辺史跡を歩く」

竹本 章



11月25日、史跡ガイド班屋外研修として池田市の史跡巡りを行いました。

当日は雲一つない秋晴れで絶好の散策日和となり、多くの方々にご参加いただきました。

五月丘古墳、池田市立歴史民俗資料館、池田茶臼山古墳、池田城跡公園、午後からは大広寺と伊居太神社を歩くコースでしたが、とくに池田城や五月山周辺の紅葉が素晴らしく、池田の史跡や街並みの美しさに感動しました。

現地ガイドとして池田観光協会のボランティアガイド様にお願ひし、池田の史跡をご案内いただき、とても丁寧にご説明いただきました。

以前より、池田と伊丹はいにしへの時代から深い繋がりがあのように感じていました。



池田には応神天皇のころ、大陸から呉織・漢織2人の織姫が機織りや染色の技術を伝えたという話が語りつがれています

が、伊丹の地名の由来の一つで「糸績(いとうむ)」から転化したという説があります。

江戸時代、梶曲阜が記した有岡古続語坤の巻に「応神天皇御宇に漢人池田へ呉服・穴織の二女わたり錦を織事を教ゆ也、(中略)伊丹ハ糸績也、皆此辺ハ呉服に連理ありてむかしの名なり」と書かれています。

他にも古代は猪名川流域での古墳集合地であるということ、中世は池田城と伊丹城の関係、有岡城の戦いの際は有岡城攻めの際織田信長は池田城から指示を送っていました。また江戸時代以降は池田酒と伊丹酒として互いに酒造業で繁栄した在郷町でもあります。

歴史的に池田と伊丹は時として兄弟姉妹のようであり、時として同盟関係であり、時として互いに切磋琢磨するライバル関係でもあったように思います。

改めて池田の史跡を学ぶことで池田市の魅力を再発見できた貴重な機会となりました。



## 思い出の世界遺産 (16)

ロシア・旧ソ連の巻 山内 富美子

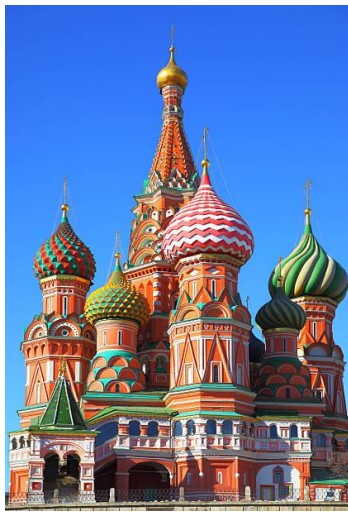
### 「モスクワ・サントペテルブルク(レニングラード)・ウクライナのキーウ(キエフ)」

1991年のソ連崩壊の1年前に、私は新潟空港からハバロフスク・モスクワ・サントペテルブルク(レニングラード)・キーウを訪れました。ハバロフスクでは、博物館やアムール川の船旅を楽しみました。モスクワでは、赤の広場とクレムリンを中心にその周辺を歩きました。

赤の広場にはレーニン廟があり、そこに詣でる人々がいつも列をつくって並んでいます。

この広い赤の広場を、政府の要人らしい人の乗った黒い車が、一瞬、物凄いスピードで走り抜けてクレムリンに消えたのにはとても驚きました。その時、かなりの人々が広場に、たむろしていたのです。

赤の広場の周辺には、沢山の有名な美しい個性的な建物がああります。その中で一番目に付くのが聖ワシリイ寺院です。16世紀にイワン雷帝が建立し、中心のポクロフスキー聖堂を8つの聖堂が取り囲む姿が、外から見ると丁度丸屋根(ネギ坊主)の鮮やかな色彩の姿と一致して強烈な印象を与えてくれます。また、伝統を誇る百貨店グムは、とても美しい建物ですが、1990年には品数が少なく、時計を一つ買うのに長い列に並んでいる人々を見かけました。真夏なのに私は冬の帽子を土産に買って来たことを思い出します。しかし、2016年に再訪したときには、外国のカフェやショップが多数入っていました。



聖ワシリイ寺院

その他周辺には、赤煉瓦の壁に白い屋根が

特徴的で、ロシア屈指の規模を誇る大博物館「国立歴史博物館」や、17世紀初頭に建立された大聖堂で、その後改装・修復・解体を経て1990年代に完全再現された赤と白のコントラストが美しい「カザン大聖堂」などがあります。

赤の広場と共にクレムリンも世界遺産に登録されています。クレムリンは「城壁」という意味で、周囲は赤い障壁で囲まれています。障壁には沢山の塔がありますが、クタフィヤ塔という小さな塔だけが入口として使われています。入ると直ぐに兵器庫があり内部は非公開で外観だけの見学です。反対側の武器庫は時間制限で入場できます。クレムリン大会宮殿にはイベント以外に入場禁止、大クレムリン宮殿は大統領が各国からの賓客との会見に使用、もちろん大統領府の内部には近づくこともできません。

クレムリン内には特徴的なドーム型の屋根の寺院がいくつかあります。ロシア皇帝の戴冠式やロシア正教の総主教の任命式が行われたウスペンスキー大聖堂、歴代皇帝と家族の棺が置かれているアルハンゲリスキー聖堂が有名です。十二使徒教会もあります。

その他、モスクワで最も高い建築物だった「イワン大帝の鐘楼」、世界最大を誇ったが、一度も使用されていない「大砲の皇帝」、重さ200トンの世界最大の「鐘の皇帝」、宝石・王冠などを集めた豪華な「ダイヤモンド庫」など色々見るべき場所があるのが、クレムリンの内側です。

モスクワで、一番印象に残っているのが、地下鉄・メトロ駅巡りです。世界一豪華で美しいと言われるモスクワの地下鉄はソビエト時代に建設され、大理石をふんだんに使い、芸術家たちにより見事な装飾を施しています。シャンデリア



地下宮殿



が沢山ぶら下がっていたり、ステンドグラスが有名であったり、様々な職業の人の銅像が並んでいたり、モザイク画が豪華な縁取りで装飾されていたり、天井や壁に優雅で繊細な細工があるなど、駅ごとに異なる装飾とデザインが楽しめる素晴らしい地下宮殿です。エスカレーターで地下のホームへ行くのですが、7・8階のビルを降りたほど地中深くに造られております。長いエスカレーターですが、怖さを感じる程とても速く動くのですぐに着きます。何故こんなに地下の深い所に大きな立派なプラットホームがあるのかと言えば、戦争が起きた時、モスクワの市民全員がシェルターとして使用出来るように造られているのだと聞きました。市民の安全のためとのことです。早朝5時から8時まで2日間一人での地下宮殿巡りは、私にとって忘れられない、とても素晴らしい経験でした。乗り換えの時、英語を話せる親切な軍人さんにそのホームまで案内していただいたのも嬉しい思い出です。

次は、ソ連時代にはレニングラード、今はサンクトペテルブルクの世界遺産についてです。

ここには1990年と2016年の2度訪れましたが、ヨーロッパで最も美しい町の一つで、歴史地区と関連建造物群が世界遺産に登録されています。

先ず第一に挙げられる建物は、エルミタージュ美術館です。かつてはロシア皇帝の住まいであった豪華絢爛な宮殿は、今は収蔵品300万点を超える世界四大美術館の一つになっています。世界中から集められた美術品と共にロマノフ王朝の栄華の結晶である大理石の階段、黄金に輝く調度品や客間、内装のすばらしい玉座の間などその栄華を感じるのも見学の楽しみになります。

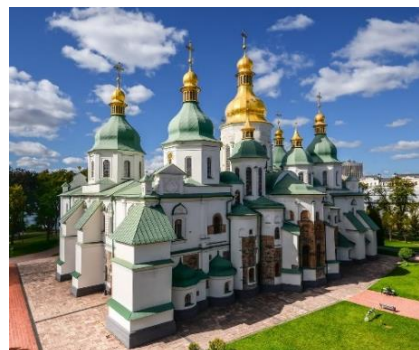
皇帝アレクサンドル2世が暗殺された場所に建てられた「血の上の救世主教会」は、ネギ坊主型のドーム屋根をいくつも持つ純ロシア風教会です。高さ85mの壮大な建物のドーム部に描かれたフレスコ画と教会内部の幻想的な美しさには魅せられます。この教会は、常に観光客で

にぎわう人気スポットで、私が訪れた時も内部は人でいっぱいでした。

サンクトペテルブルク近郊にあるピョートル大帝によって建設された夏の離宮は必見の場所です。フィンランド湾を望むこの離宮は、ヴェルサイユ宮殿をモデルにして建てられました。大帝がヨーロッパにロシアの力を誇示するために建てた大宮殿です。その庭園内には約150の噴水と4つの滝があり、訪れる人を魅了します。無数の噴水の中で獅子の口を開くサムソン像の噴水は人気があります。なぜなら、スウェーデン軍への勝利を讃えて造られたもので噴水の高さは20mあります。

サムソンはロシアを、獅子はスウェーデンを象徴しています。ほかにも、踏むと水が噴き出す「いたずらの噴水」や「ローマの噴水」などユニークな噴水が点在しています。夏の離宮にふさわしい庭園です。

最後にウクライナのキーウの世界遺産に触れておきましょう。



聖ソフィア大聖堂

私はウクライナがソ連の中に入っていた1990年に、キーウを訪れました。聖ソフィア大聖堂を背景に若い水兵服姿の学生さんたちと談笑し、写真を撮ったことを記憶しています。

キーウにはソフィア大聖堂をはじめ、それと関連する修道院群が世界遺産に登録されています。ロシアのウクライナへの侵攻がずっと続いている今、貴重な世界遺産が無事でありますようにと祈らずにはおられません。

以上

## 屋外研修の記録

### ◆10月21日（金）塚口（近松関連） 参加7名

尼崎市は「近松のまち」を市内外にアピールするために各種のモニュメント彫刻等を設置し、近松記念館等の施設を整備しています。

阪急塚口駅南出口に集合、駅前の近松文学碑～彫刻の道～ピッコロシアター～近松モニュメント～上坂部西公園家紋入り道標～西方寺～久々知須佐男神社～矢文石～広済寺～近松公園の順序でこれらの近松関連の施設を巡りました。



須佐男神社 矢文石の説明

### ◆11月17日（木）川西南部 参加7名

今回は川西市文化財ボランティアの会にガイドをお願いしました。なお同会とは平成31年9月に伊丹で交流会を実施しています。

当日のコースは以下の通りです。勝福寺古墳～八阪神社～勝福寺～阿古坂の道標～火打の灯籠～車輪のモニュメント～栄根寺廃寺跡～銭屋五兵衛の碑～ナイチンゲール像～小戸神社遥拝所



ナイチンゲール像

勝福寺古墳は川西市に現存する唯一の前方後円墳で県指定史跡、築造は6世紀前半とされています。石室内部には入れませんが、外からライトを照らして内部を観察しました。栄根寺廃寺は奈良時代の創建と推定されていますが、創建当時の伽藍はまだ発見されていません。銭屋五兵衛、ナイチンゲールは当地とは直接関係のない人物ですが、顕彰碑および像が建立されるに至った経緯を知りました。

### ◆12月15日（木）荻野・大野・東野 参加13名

年内最後の屋外研修に多くの会員が参加しました。当地区は会がこれまで訪れたことのない「空白地域」で、交通の便がよいバラ公園を集合場所として南へ下るコースを設定しました。旧陸軍施設引込線のトンネル～荻野春日神社～源正寺～荻野小学校水路～児島晴海の顕彰碑～旧白洲邸の長屋門～東野春日神社。

春日丘の旧白洲邸にあった長屋門が東野の旧家に移築されています。伝統的な造りではなく、大正時代当時のスタイルで建てられています。家の人の説明によると今も時おり団体の見学があるそうです。



白洲邸長屋門前

## 【研修サロン班・活動予定】

（勉強会）2/2（木）「池尻地区」、3/2（木）大阪市北部「今昔館から能勢街道起点の中津へ」、4月以降未定

（屋外研修）2/17（金）池尻地区、3/16（木）大阪市北部「今昔館から能勢街道起点の中津へ」、4月は以降未定



私は当年で 91 歳になり、令和 5 年 3 月末をもって、23 年間お世話になった伊丹市文化財ボランティアの会を退会することになりました。平成 13 年に 6 期生として入会してから、文化財ガイドやロマン事業を始め、様々なイベントに参加させていただきました。その間、文化財の事業に関わってこられた多くの方々からご指導、ご協力をいただきましたことは感謝の気持ちで一杯です。

振り返れば、楽しく充実した日々でした。

平成 18 年には 4 代目の会長を拝命し、10 年間務めさせていただきました。就任当初の 45 名だった会員数が最大 68 名まで増え、会員各位のご協力と努力により市内のガイド界の一大勢力に発展したことは感無量の気持ちでした。

平成 20 年 10 月 15 日、関西テレビ放送の人気番組「よ〜いドン！」の撮影スタッフが旧岡田家住宅・酒蔵に来館し、レポーター月亭八光さんに約 40 分のガイドを行い、「となりの人間国宝」に認定されたことは印象深い思い出です。

平成 21 年 4 月～6 月には全国規模の大型交流キャンペーン「デストネーション・キャンペーン」(兵庫県主催)が開催され、取材協力とともに JR 伊丹駅内での受付ガイドやイベント出演等、多方面に渡り活動させていただきました。



ガイドの参考になればと思い、夙川学院大学キャンパスでの「ひょうごオープン・カレッジ・ニューツーリズムを担う人材養成講座」(兵庫県主催)に参加したことも強く印象に残っています。4 月～6 月の 3 ヶ月間(有料)開催され、兵庫、大阪、京都から 37 名の受講生が参加していました。

また、<伊丹の昔話・民話>を紙芝居・ペープサートで紹介する、分科会「どんぐり座」の活動では、幼稚園・老人会などへの出前公演や小学 3 年生を対象とする授業「心の匠」(伊丹市教育委員会学校教育課)での公演を実施し、当会の認知度向上に貢献できたと自負しております。

最後に、会員の皆さまにおかれましては当会発足以来取り組んできた文化財ボランティアの主旨をご理解の上、会の活動を益々発展させていただくとともに、皆さまのご健康を切にお祈りいたしまして、感謝とご挨拶の言葉とさせていただきます。

### お薦めの本

### 小説「塞王の楯」

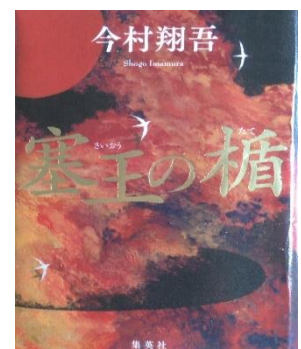
今村 翔吾

有岡城跡には自然石をほとんど加工せずに積んだ野面積の石垣が残されています。戦国時代、武将たちは自分の領地に城を築き、敵対する武将の侵略に備えます。その要になるのが城を囲っている石垣であり、いわゆる楯として重要な役割を果たします。一方、ポルトガル人によって持ち込まれた鉄砲は弓矢や刀に代わり、城攻めの矛として普及していきます。

小説では野面積(のづらづみ)の職人集団「穴太(あのを)衆」と鉄砲職人「国友衆」との存亡を掛けた戦いが、大津城のダイナミックな戦闘シーンで描かれています。

有岡城を舞台にした「黒牢城」とともに、令和 3 年前期の直木賞を受賞した歴史小説です。

(金川 記)





静かな境内に入ると、足を引きずり歩く人や杖を持った人の姿が目に入ってくる。服

部天神社は「足の神様」として知られている。

901年、左遷された菅原道真公が大宰府へ向かう途中足の病に襲われたが、この社に参拝し祈願すると、足の痛みが治癒したと伝えられている。以来、「脚気天神」や「足の神様」と呼ばれ、今では足の病気の平癒の他、足を使ったスポーツの上達を祈願する人達の聖地ともなっているという。

昨年北京で冬季パラリンピックが開催された頃、女性の参拝者がたくさん訪れた。足を痛めていた人気のフィギュアスケート選手が治癒して活躍できるよう



にと、絵馬を奉納する女性が絶えなかった。また、ワールドカップが開催された時も日本選手の活躍を祈って、たくさんのサッカーファンが訪れ、絵馬を奉納していたという。

江戸時代前期に伊丹の酒造家で生まれた、俳人上島鬼貫の石碑は境内入口のすぐ右横にあった。句碑を建てたのは、鬼貫を私淑していた梶曲阜(江戸時代の酒造家・俳人)。



### 賃とらで 象も田をかえず 動き哉

中国の『二十四孝』に登場する舜がひとりて田を耕していると、象が列をつくって田を耕し、鳥たちが群れをなして雑草をひいて手伝ったという故事に心動かされた鬼貫が詠んだ句という。

## 学習支援班(いたみ民話会)の活動

伊丹の民話・昔話を紹介する紙芝居公演や物づくり体験などを通じて、昔の文化や生活を次世代(ジュニア層)に伝える文化財啓蒙活動をしています。

### ■クリスマス会……12月10日(土)

年末の時期に主催するイベントを企画し、いきいきプラザで開催。小学生以下6名(付き添い人別)が参加し、プロジェクターに映し出された伊丹の民話を鑑賞した後、木を組み合わせて作る「くるくる回る鉄棒人形」の工作を楽しみました。

### ■みんなで聞こう!伊丹の民話……1月22日(日)

ラストホールで会の主催イベントとして開催され、小学生以下7名(付き添い人別)が参加しました。「二蠟丸(荒木村重の少年時代のお話)」と「三軒寺の砂かけ狸」の民話を鑑賞した後、子供も大人一緒になって、パタパタと裏返る紙製オモチャの工作を楽しんでいました。





## 年男・年女

年男のつぶやき

22期生 荒西 克招

今まであまり年齢を意識することなく生きてきた私は、年男だから何か書けと言われて大変戸惑っている。何か、その時その時にやらなければならないことを追っかけているうちに、年の瀬を越えていたというのが実感である。定年退職を迎える年＝「還暦」は、さすがに何か感慨がわいてくるだろうと待っていたが、さしたる感慨もなく過ぎて行った。

こんな調子だから、6回目の卯年だと言われても「特になし」と言うほかないが、還暦と言えば、高校で、初めて担任をした生徒たちが、今年(22年4月～23年3月)還暦を迎える。「いい年になったな、前半生はどうだった？」と問いかけたい思いはある。また、彼ら、彼女らと交わした自分への宿題が果たせていないのが気がかりである。

結びに、同じ年生まれの「鉄腕アトム」を題材にした詩を紹介してつぶやきをとじたい。

### ◆百三歳になったアトム 谷川 俊太郎◆

人里離れた湖の岸辺でアトムは夕日を見ている／百三歳になったが顔は生れたときのままだ／鴉(からす)の群れがねぐらへ帰って行く

もう何度自分に問いかけたことだろう／ぼくには魂ってものがあるのだろうか／人並み以上の知性があるとしても／寅(とら)さんにだって負けないくらいの情があるとしても

いつだったかピーターパンに会ったとき言われた／きみおちんちんないんだって？／それって魂みたいなもの？／と問い返したらピーターは大笑いしたっけ

兎…すみません、実は寅？

26期生 山田 美智恵

1月生まれの私は、以前から自分の干支について寅なのか兎なのか、でも寅だろうくらいに思っていました。が、昨年、火曜会通信の年男・年女の記事募集の際に、素直に手をあげることができませんでした。還暦、数え年で60才になるのは、2023年。年女ということは還暦？いや、まだ認めたくない。うやむやのうちに過ぎてしまったので、今回はあきらめて正直に告白し、原稿を書くことになりました。

2022年、本厄の主人が思いがけない大病をし、自分も還暦…本当に時のたつのは早いものだなあと思います。自分が健康であることだけでも本当に有難い。振り返ってみても、至らないところばかりの自分にしてはまずまず幸せな人生、感謝なくては。先日、13年乗った普通車を軽自動車に買い替えたのですが、希望の色は1カ月以上待ち、すぐに納車できるのは赤色だけとのことでした。ちゃんちゃんこ替わりにそれもありかと、赤い車を運転しています。

干支に厄年、還暦。新暦を使うか旧暦を使うか、節分でかわるのか。ネットで検索しても色々あって、どれが正解なのかわかりません。この際、自分の都合の良いように考えて、寅の強さを持つ兎(になれればいいなあ)ということにしておきます。

皆様、今後ともよろしく願いいたします。



### 伊丹文化財クイズ

伊丹の文化財に関する難読漢字を集めました。さて、いくつ、読めますか？

- ①蟋蟀 ②蟄股 ③厩戸王 ④須患器 ⑤関伽井 ⑥斗拱  
⑦妻飾虹梁 ⑧塔頭 ⑨無患子 ⑩夏目甕磨

※答えは10ページ。

## 活動記録 (11月～1月)

【定例会】・11/8 (火) ・12/13 (火) ・1/17 (火)

### 【史跡ガイド】

・11/19 (土) 令和4年度第3回市民ガイド (文化財保護啓発事業) ・11/21 (月) Aコース (区民カレッジ 大阪市) ・11/24 (木) Aコース (大学OB会 川西市)

## 令和4年度 伊丹市文化財保護啓発事業「つなごう 伊丹の文化財」に参加・協力

### 【文化財保護団体等紹介パネル展】

市内に8つある文化財保護団体の活動や文化財保護団体に合わせたイベント等を紹介するパネル展が11月1日～15日まで総合教育センター1階で開催され、当会も活動内容を紹介したパネルを展示しました。

### 【歴史散策 (守ろう村重の城～信長の攻撃に備えよ)】

有岡城跡の惣構(約4km)を歩き、墨染寺や猪名野神社などの文化財をガイドしました。※詳細は2pに掲載しています。

### 【市内史跡一斉清掃】

11月26日(土)、文化財保護啓発事業の一環として、有岡城跡・伊丹廃寺・御願塚古墳の市内3か所で一斉清掃が行われました。当会からは合計14名の会員が参加しました。



御願塚古墳での清掃

## 今後の予定 (2月～4月)

【定例会】・2/14 (火) ・3/14 (火) ・4/11 (火)

【史跡ガイド】・2/18 (土) Dコース (体験学習サークル 大阪市) ・2/25 (月) 令和4年度第4回市民ガイド

※研修サロン班の活動記録と予定はP6に掲載しています。

## 第28回文化財ボランティア養成講座

第28回文化財ボランティア養成講座は1月17日(火)から始まりました。

講座内容は下記のとおりです。

- ・1/17 (火) オリエンテーション ・1/24 (火) 講座「有岡城から伊丹郷町へ」
- ・1/31 (火) 講座「市内の自然について」 ・2/7 (火) 講座「市内の忠魂碑について」
- ・2/14 (火) 講座「旧岡田家住宅・旧石橋家住宅 ・市立伊丹ミュージアム」
- ・2/21 (火) 文化財ガイド実習に向けての準備 ・3/7 (火) 文化財ガイド実習リハーサル
- ・3/11 (土) 文化財ガイド実習本番

※文化財ボランティアの会の会員になるためには、毎年1月～3月に開催される全8回の養成講座を受講していただく必要があります。養成講座については 伊丹市文化振興課 文化財担当 (電話：072-784-8090) までお問い合わせください。

クイズの答え ①きりぎりす ②かえるまた ③うまやどのおう ④すえき ⑤あかい ⑥ときょう  
⑦つまかざりこうりょう ⑧たっちゅう ⑨むくろじ ⑩なつめみかまる